

釧路市教育委員会 令和5年第16回8月定例会会議録

1 日時：令和5年8月29日（木）10時00分から11時30分まで

2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

種村俊仁委員、小出美貴子委員、靱山彩子委員

（事務局）

齋藤学校教育部長、森学校教育部次長、大島総務課長、西崎施設計画主幹、小西教育政策主幹、齊藤総括指導主事、外崎青少年育成センター所長、吉岡指導主事、神谷給食担当主幹、及川北陽高校事務長、澤口生涯学習部次長、菅原スポーツ課長補佐、松本博物館長、鈴木動物園長

4 議事録署名人 種村委員 靱山委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

議案第62号 令和6年度（2024年度）から使用する小学校教科用図書の採択について

報告事項

（1）令和5年度釧路市子どもミーティングの開催について

（2）大館市授業マイスター招聘授業について

（3）「第45回全国公民館研究集会北海道大会・第67回北海道公民館大会 in くしろ」の開催について

（4）第51回釧路湿原マラソンの開催結果について

（5）令和5年度全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技大会の開催結果について

（6）学校の現状について

## 7 会議内容

### 【公開案件】報告事項

議案第62号 令和6年度（2024年度）から使用する小学校用教科用図書の採択について

（森学校教育部次長）

議案第62号、令和6年度（2024年度）から使用する小学校用教科用図書の採択について説明する。

本年、6月2日に鉦路町との第20教科用図書採択地区教育委員会協議会を開催し、今年度の教科書採択事務の内容や日程等について協議を行った。小学校用の教科書については、鉦路町と合同で教科用図書の調査研究を行うことを決め、鉦路市48名と鉦路町21名の計69名の調査委員により、6月19日に第1回目の教科用図書合同調査委員会を開催したところである。以降、約1ヶ月にわたって小学校用の教科書見本について調査研究を行っていただき、7月31日に調査結果の答申をいただいた。

この答申により報告された「教科用図書採択参考資料」を基に、8月8日に各教科の小委員会から鉦路市・鉦路町の協議会委員への質疑応答が行われ、その場で審査を行った。その後、同日、8月8日に開催した第2回目の第20教科用図書採択地区協議会において、改めて鉦路市と鉦路町における選定教科書が決定した。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

（岡部教育長）

これまでの教科用図書の採択に関わっては、鉦路市・鉦路町地区において、教育委員にも議論に入っていたいただきながら事務を進めてきたところである。しかし教科書採択に関わっての事務量の膨大さに疑問を感じており、今回は内容を精査して進めてきた。教育委員の皆さんには今回初めて採択をいただくとしている内容について、ご説明させていただくというものである。結果的には、前回採択時から国語と書写が変わっただけである。そのほかについては現行使用している会社の教科書を使用していく。鉦路市・鉦路町の両教育長による協議会において、議論させていただいた結果ということでご承認賜りたい。

（種村委員）

管内と鉦路で一緒にしていくということか。

（岡部教育長）

そうではなく、教科書の内容について調査委員会の中で頂いた声を基に協議をした結果であり、あくまで教科書の内容についての検討結果ということである。

### 【公開案件】報告事項

(1) 令和5年度釧路市子どもミーティングの開催について

(齊藤総括指導主事)

報告事項1、令和5年度釧路市子どもミーティングの開催について報告する。

今年度の「釧路市子どもミーティング」は、令和5年9月2日(土)にまなぼっと幣舞を会場に実施するものである。今年も会場での参加は「釧路市健全育成標語」の入選者表彰を受ける児童生徒、子どもミーティング参加者および関係の保護者、引率の教職員に制限する形で実施し、表彰式、学校紹介、子どもミーティングの様子はオンライン配信を行う予定である。今年度の「子どもミーティング」では、中学生、高校生のほか、市P連や連町の方々、さらには教育委員の皆様にもご協力いただきながら、子どもたちをとりまく様々な問題の解決に向けて考え、発信していく場にしたいと考えている。今回のテーマは「仲間とのつながりを深めるために～学校や地域でできること」である。まずは自分の学校で、さらに中学校区で、テーマの実現に向けて、自分たちが自発的にできる活動について考えていくことで、主体的に社会に参画する意識や態度を育みたいと考えている。

次年度以降は、自校の実践をさらに拡大し、釧路市内全小・中学校が主体的に様々な取り組みを年間通じて考え、行動し、次年度の子どもミーティングの中で検証していきたいと思う。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(岡部教育長)

「子どもミーティング」に名称を改めてから3回目となる。今回からは教育委員にもグループディスカッションに加わっていただくよう、お願いしたい。

**【公開案件】 報告事項**

(2) 大館市授業マイスター招聘授業について

(齊藤総括指導主事)

報告事項2、大館市授業マイスター招聘事業について報告する。

本事業は、学力向上に係る施策の一つとして、全国的にもトップクラスの水準を維持している秋田県大館市の授業マイスターを招聘し、実際に釧路市の児童生徒に対して授業を行っていただき、釧路市が目指す授業の姿を実現するために、本市教員との協議を行い、授業力向上を推進することを目的に実施するものである。

今年度の取組について、1点目は大館市の授業マイスターによる授業を参観し、事後の協議を行うこと、2点目は秋田県大館市の学力向上に関する取組事例を紹介いただくこと、3点目は大館市授業マイスターと釧路市授業マイスターがパネルディスカッションを行い、授業づくりに関するシンポジウムを行うこと、4点目は本事業の成果を報告書としてまとめ、

各学校へ周知するとともに、本市の学力向上の施策に活用することである。

秋田県大館市教育委員会と調整を行い、今年は大館市授業マイスターである、大館市立桂城小学校教諭、中嶋恵様、大館市立東中学校教諭、根本大輔様をお招きすることとなった。日程については、10月2日（月）に2名の先生方が釧路市に到着し、その後、釧路市教育委員会に訪問いただき、学力向上や授業改善に係る協議を行う。翌日10月3日（火）は、研究センター研修講座として、芦野小学校と鳥取中学校を会場に示範授業を行い、授業終了後に研究協議を行う。授業を行う学年については、現在調整中である。この示範授業の様子と研究協議の様子については、後日、オンデマンドによる配信を行う。10月4日（水）は、昭和小学校と北中学校の授業を視察後、昭和小学校を会場に午後1時より、釧路市授業マイスターとのシンポジウムを行う。この様子についても、後日オンデマンドで配信する。

教育支援課としては、大館市授業マイスターによる示範授業や研究協議、シンポジウムを通して、授業改善の重要性、釧路市が目指す授業の意義について、釧路市全教職員が理解を深め、同じ方向性に向かって授業改善を進めることを期待しているところである。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

（岡部教育長）

過去2年は釧路市から大館市に教員を派遣する事業を進めてきたが、今年は大館市の本家の授業マイスターを釧路に招聘して、公開授業やシンポジウムを行うというものである。

（種村委員）

具体的に大館市のマイスターが教壇に立って生徒を前に授業を行うということか。

（齊藤総括指導主事）

実際に大館市のマイスターに来ていただき、調整中ではあるが芦野小では4年生、鳥取中では2年生に教科書を使って授業を行う。

（種村委員）

そこには我々も参加できるのか。

（齊藤総括指導主事）

ぜひ参加いただければと思っている。

（種村委員）

大館市の授業にはどういった特徴があるのか。

（齊藤総括指導主事）

釧路市が目指す授業のすがたと同じように、主体的、対話的ということが特に大きな特徴かと思う。そのあたりで大館市の先生が釧路市の子どもたちに対して、どのような形で対話的な授業を進めていくのか参考にしたいと考えている。

（岡部教育長）

大館市の教育長は、先生が一方向的に話す講義型の授業はどれだけやっても、学び合う対話的なディスカッションを含めた授業には遠く及ばないと言っていた。大館市の授業はどの先

生がどの教科でどの学年を行っても、どの教員も対話的な授業を行う。釧路市はまだまだそのレベルに至っていない。ぜひ大館市の教員からそのような授業の方法を学んでいただきたいと思っている。

(小出委員)

大館市の先生方が釧路市の子どもたちを相手に授業したとき、釧路市の子どもたちがどういう反応をするのかが楽しみである。それを見てほかの先生たちも学んで広がっていけば良いと思っている。来られない先生方のためにオンデマンドで配信ということであるが、広く先生方に見てもらえるようにさらに周知し、見て学んでいただければと思う。

#### 【公開案件】

(3)「第45回全国公民館研究集会北海道大会・第67回北海道公民館大会 in くしろ」の開催について

(澤口生涯学習部次長)

報告事項3、「第45回全国公民館研究集会北海道大会・第67回北海道公民館大会 in くしろ」の開催について報告する。

本大会は、本年10月5日木曜日、6日金曜日の2日間、釧路市生涯学習センターにおいて開催を予定しており、釧路市では平成29年度以来、6年振りの開催となる。大会テーマを「コロナ禍以後の北海道の地域づくり」とし、社会の変化に対応した公民館のあり方、地域づくりの拠点となる公民館の今後の方向性について、全国・全道の公民館関係者や社会教育関係者等が一堂に会し、研究協議をする。

1日目は、基調講演、シンポジウムなどの開催、2日目は2つの分科会を行い、熟議を重ねることとしている。また、本大会には、寿都高校の生徒、釧路市から湖陵高校と北陽高校の生徒、それぞれ4～5名に参加いただく。1日目のシンポジウムに登壇を予定しており、高校生目線での「北海道の地域づくり」などについて、意見をもらうこととしている。なお、1日目の基調講演、シンポジウムには、関係者以外の市民も参加可能となっており、本大会を機に、市民との協働による地域づくりに発展していくことを期待している。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

#### 【公開案件】

(4) 第51回釧路湿原マラソンの開催結果について

(菅原スポーツ課長補佐)

報告事項4、第51回釧路湿原マラソンの開催結果について報告する。

7月30日(日)に第51回釧路湿原マラソン大会が開催された。参加申込者数については「2,812名」、参加者数については「2,595名」であり、前回大会を上回る結果と

なっている。前回課題であった、学生や児童の参加者数の減少に対しては、全児童へチラシの配布や、部活動単位での積極的な参加依頼を実施するなど、新たな取り組みを行った結果、前年度より増加へつなげることができたところである。

大会当日の気温については、最高気温26.6度と観測史上最高を記録した前回大会と比較すると走りやすい気温となり、30キロの完走率についても85.6%と前回大会を上回る結果となった。大会当日における救護手当の状況については、45件の救護対応があり、そのうち救急搬送者が3名いたが、3名とも退院している。

ゲストランナーについては、前回大会に引き続き「川内優輝（かわうちゆうき）選手」に参加いただいたほか、陸上競技の実業団チームである小森コーポレーション陸上競技部から「ジョン・カリウキ選手」及び「橋本隆光（はしもとたかみつ）選手」に参加いただき、大会を大いに盛り上げていただいた。

本事業の実施にあたり、767名のボランティアの方々に大会運営のスタッフ等として格別のご協力をいただいたことに、改めて感謝を申し上げるとともに、今後とも釧路湿原マラソンが市民はもとより、全国各地から多くの方々に参加いただける魅力あるスポーツイベントとして発展するよう、さらに運営面などの充実に努めていきたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

（小出委員）

今年度も暑く、体感的には30度くらいに感じたが、完走率は去年よりも上がっていると聞き良かった。10キロのコースが変わり、それについて前回の定例教育委員会の説明の際に、アンケートを取って今後の検討材料にするとあったが、コースが変わったことについて何か意見等はあったか。

（菅原スポーツ課長補佐）

アンケートを実行委員会で行い、8月25日現在、10キロコースに関する質問項目の約3割から不満との回答が出ている。その中で10キロコースに関して190件アンケートの回答があるが、7件ほどコース変更に関する不満の声があった。具体的には「周回ルートになってしまい残念」「昨年のコースの復活を望む」「周回コースは面白くない」「同じところを2周するだけなのに参加費が高い」などの声があがっている。12月に実行委員会が行われるため、それまでにコースをどうするかと検討していきたい。

（小出委員）

市民からは当日、通行不可となる道ができてしまうという不満もありつつ、参加者には楽しみながら走ってもらいたいという気持ちもあるため、難しいところではあると思うが検討していただきたい。

（岡部教育長）

主催の実行委員の中でアンケート結果を踏まえて、議論が今後なされていくと思う。

（靱山委員）

今回初めて顔を出したが、参加者はいきいきとしており、素敵なイベントであると再認識した。実際に走った方から話を聞いたときに、ボランティアの方々の声援を含め、対応に元気づけられ、ゴールに向かって走ることができたという声があり、ありがたいと思う。沿道の声援にも元気をもらえたと言っていた。またスポーツ財団の方が準備いただいた氷について、走った後の体を冷やすことができ、とても良かったという声もあった。

(菅原スポーツ課長補佐)

氷については、スポーツ振興財団で管理しているスケート場で削った氷を活用して例年行っている。昨年に関しては観測史上最高気温となり、ゴール地点及び20キロ地点付近に軽トラック1台分程度の氷の山を設置したところ大変好評であったため、今年はさらに折り返し地点の15キロメートル地点にも氷を追加し、ランナーに好評であったと聞いている。

#### 【公開案件】

(5) 令和5年度全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技大会の開催結果について

(菅原スポーツ課長補佐)

報告事項5、令和5年度全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技大会の開催結果について報告する。

北海道では36年ぶり、釧路市では初開催となった夏季インターハイについて、釧路市では8月1日(火)から5日(土)にかけて、ウインドヒルくしろスーパーアリーナ及び釧路町総合体育館にて競技が開催された。

女子バレーボール競技は、夏季インターハイの中でも特に人気の高い競技として注目を集めており、大会期間中における来場者数については、釧路市及び釧路町の5日間合計で42,426人となっている。

大会には全国から予選を勝ち抜いた51校が出場しており、北海道からは旭川実業高等学校、札幌山の手高等学校の2校が代表として出場している。北海道代表の2校には4名の釧路市出身者が選手登録されており、旭川実業高等学校の井関芹花選手には、開会式の選手宣誓を務めていただいた。

大会結果については、優勝は東京都代表の下北沢成徳高等学校、準優勝は長野県代表の東京都市大学塩尻高等学校となっている。北海道代表として出場した2校については、両校とも決勝トーナメントへ進出したが、旭川実業高等学校は2回戦敗退、札幌山の手高等学校は1回戦敗退となっている。

大会運営に際して、釧路管内の高校9校から462名の生徒に補助員として協力いただいたほか、釧路の高校6校には大会出場校の練習会場として体育館を開放していただいた。

本大会に携わっていただいた関係者の皆様、また、プログラム広告への協賛により大会を支援していただいた多くの事業者の皆様に改めて感謝するとともに、大会開催を通じて、釧路市の地域経済の活性化並びにスポーツ振興に寄与したものと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(小出委員)

3日間拝見させていただき、来場者数の多さから、全国レベルの大会への関心の高さを実感した。試合に関わるボランティアはバレー部の方たちがしていたと思うが、憧れのインターハイという舞台に自分たちが出られなくても目の当たりにすることで、良い刺激を受けられたのではないかと思う。会場運営の高校生のボランティアと話す機会があり、いろいろな部活の子たちが集まっているようで、競技は違うが同年代のトップ選手が争っているのを見て、運営に関わるたくさんの高校生のボランティアが良い刺激を受けていたように思う。また、炎天下で車の誘導をしていたスポーツ課の方に関しては、日に日に日焼けしていく姿を見て大変だと思い、とても感謝している。選手の乗ったバスを誘導している職員が笑顔で手を振っており、試合に向けて緊張している選手たちにとって少しホッとすることができたのではないかと思う。そのようなところで選手が気持ちよくプレーでき、大会がスムーズに進行できるようにと気にかけて運営側の気持ちが表れていたように思う。トップレベルの選手たちの試合のほかにも、運営の気持ち良い場面を見ることができたため、とても感動し、楽しむことができた。

(岡部教育長)

バレーボールには三冠と呼ばれるインターハイ、国体、春高というものが3つあり、開会式以降何度か見に行ったが、やはり全国大会だという印象を強く受けた。それを支える陰の人たちも含め、とても大きな大会だという印象をさらに強く受け、大いに感動した。

## 【公開案件】

(6) 学校の現状について

(齊藤総括指導主事)

報告事項6、学校の現状について報告する。

市内の小・中・義務教育学校は27日間の夏休みが無事に終了し、18日に始業式を迎えている。幸い、今年の夏休みは交通事故をはじめ、大きな事故や事件は発生しなかった。しかし、中学校を卒業したばかりの高校生が交番のガラスを割って逮捕される事案をはじめ、小中高校生の仕業とは限らないが、市内複数校の花壇やその周辺備品が荒らされたり、窓ガラスを割られたりといった被害があったほか、中高生らしき若者が公園で騒ぐなどの情報もあった。また、札幌市で中学生が商業施設から飛び降りる事案も発生している。長期休業明けの児童生徒の様子の変化を敏感にキャッチし、自殺の予防はもとより、不登校やいじめの兆候をはじめ、生徒指導上の問題行動については積極的予防に努めるよう各学校に周知したところである。

全国学力・学習状況調査の結果については、後ほど私から報告するため割愛させていただく。



学力向上プランの協議について、全国学力・学習状況調査の結果を受け、その改善策等を各学校の学力向上プランに追記・修正をしたものを持参し、教頭から説明を受けて、適宜指導するものである。教頭のほか、教務主任や学力担当教諭も参加するケースが多く、市教委側は教育指導参事と担当指導主事が対応する。どの学校も、実効性が現れるよう、計画の着実な実施に向けて、指導したいと考えている。

2学期以降の学校経営訪問の仕方について、若干の変更が釧路教育局の教育指導監から連絡があったため各学校に周知したところである。

大館市の授業マイスター招聘事業についても、先ほど私から報告したため割愛させていただく。

最後に、連合町内会の青少年健全育成大会の日程変更の点について、当初、11月25日を予定していたようであるが、あいにく中学校の一斉土曜活動日と重なり、少年の主張釧路市大会の入賞者4名の中学生の発表を予定していることから、日程を11月11日に変更したと連絡があった。なお、この日は市P連のチャイルド1DAYと重なっている。

◎この報告について、各委員からの発言はなし